

マリー・アントワネット展 ヴェルサイユ宮殿監修

美術品が語るフランス王妃の真実

森アートセンターギャラリー（六本木） 2016. 10. 25～2017. 02. 26



ヴィジェ・ル・ブラン《王妃マリー・アントワネット》 1785年 油彩・カンヴァス

「マリー・アントワネット」(1755～1793)は、14歳時にフランス王太子（後にルイ16世）に嫁ぎ、革命の波にのまれて37歳の若さで亡くなった。

本展は、彼女が暮らした「ヴェルサイユ宮殿」の企画・監修のもと、その激動な生涯を辿るもので、出展は「肖像画」はもちろん、王妃が愛用した「食器・漆器・家具・身に着けた衣服」に「革命期の資料」など美術的かつ歴史的に貴重な品々「200点」余りである。さらに、最大の見所は、宮殿以外でこの規模で空間再現されるのは史上初の試みとされている「ヴェルサイユ宮殿内のプライベート空間」－「プチ・アパルトマン」の浴室、図書室、居室を当時の装飾や実際に使われた家具などとともに実寸大で再現されて展示されている。



左：《大盛装姿のマリー・アントワネット》 1775年頃 エ칭・水彩

右：宮廷内にある王室の寝室